



「余白」

校長 本間 基史

東洋経済の ONLINE 記事にこのような内容がありました。～今回の教育課程の改訂には大きな期待を寄せています。これまでタブー視されてきた授業時数や教育課程の構造に踏み込もうとする姿勢は、過去の改訂と比べても明らかに踏み込んだものです。実際、先進校の実践や現場の声を踏まえた議論も積み重ねられています。しかし、一方で現場としては、「何も減らないのではないか」「生活は変わらないのではないか」という不信感が根強く残っています。これまでもさまざまな施策が講じられてきましたが、なぜ現場では業務が減ったと感じられないのでしょうか。その背景には、日本の教育が長年続けてきた「足し算の改革」という構造があります。日本の教育は、善意によってつくられてきました。

- ・学力を保障するために内容を足す。
- ・現代課題に対応した多様な力を育てるために活動を足す。
- ・安心して学校に通わせるために評価を整える。
- ・健康のために行事を充実させる。

こうした一つひとつは、どれも「子どものため」を思っている取り組みです。しかし、それらが積み重なった結果、学校生活は過密化し、子どもも教師も「回復するための時間」を失ってしまいました。～中央教育審議会での論点整理においても、教育課程の柔軟化や時数配分の見直しなど授業時数の見直しは検討項目として示されています。学校で6時間授業を受け、帰宅後も塾や習い事に追われ、子供たちの自由に過ごす時間や、何もせずゆっくりする時間は削られていきます。こうした「回復の時間」の消失は、子供の心身に確実に影響を与えています。教員の仕事も様々な教育課題が増え、家庭教育で担ってきたしつけも学校で期待され、事務仕事も含め、私が教員になった頃と比べても何倍にもなっています。宿題の出し方や教育課程、学校行事についても、保護者の皆様方とも方針を共有しながら、学習指導要領改訂の方向を見つめ、徐々に子供たちの現状や地域の特性、学校の特色（津久戸らしさ）を考え、足し算の改革から、引く改革を考えていきたいと思えます。

本年度の学校運営へのご理解、ご協力に感謝申し上げます。

研究の成果

研究主任

「校内研究」は、子どもたちにより良い学習の機会を提供するために、私たち教員が授業改善に向けて取り組むことを目的としています。

津久戸小学校では「対話を通じた協働的な学び～自己調整しながら学習する児童を目指して～」をテーマに研究を行いました。

自己調整学習とは、児童・生徒が自分自身の学習に能動的に関与し、学習を調整していく学び方です。今年度、津久戸小学校では、1年生の国語、3年生の国語、5年生の道徳において、計3回の研究授業を行いました。今年度は、特定の教科にこだわらずに、研究を進めました。

各授業では、児童が自己調整学習を実践できるよう、学習活動やテーマを自ら選択する場面を設けました。その結果、どの授業でも児童が意欲的に学習に取り組んでいる様子が見られました。

研究テーマを設定してからまだ1年目ですが、今年度の成果と課題を振り返り、来年度も教職員一同、研究をさらに深めていく所存です。児童が学習の方法や進め方を自ら選び、より深い学びに前向きに取り組めるよう、引き続き努力していきます。

ぜひ、ご家庭でもお子さんと日頃の学習について話し合ってみてください。

音楽室より

音楽専科

12月5日(金)に四谷区民ホールにて新宿区小学校音楽のつどいが開催され、津久戸小としては7年ぶりに、4年生が参加しました。リコーダー「タイタニックのテーマ」合唱「あした笑顔になあれ」を披露しました。どちらも、「今日は120点だった!」と響きを楽しみながら演奏できたようで、良い経験になりました。

他の学年も2年生が太鼓のリズムを創作して全員でつなげて演奏するなど、頑張っている様子です。

